

令和 5 年度農山漁村振興交付金
農山漁村発イノベーション推進事業
(農福連携型のうち普及啓発・専門人材育成推進対策事業)

「認知度向上セミナー」
「交付金活用セミナー」
「農福連携フォーラム&マルシェ」
「農福連携技術支援者の集い」

<事業実績報告書>

概要版

2024 年 3 月 31 日



農都総研

株式会社農都共生総合研究所

目次

事業内容	3~4p
認知度向上 web セミナー(1回目)	5~6p
認知度向上 web セミナー(2回目)	7~8p
交付金活用セミナー	9~10p
農福連携フォーラム&マルシェ in 北海道	11~12p
農福連携フォーラム&マルシェ in 東北	13~14p
農福連携フォーラム&マルシェ in 北陸	15~16p
農福連携フォーラム&マルシェ in 中国四国	17~18p
農福連携フォーラム&マルシェ in 近畿	19~20p
農福連携フォーラム&マルシェ in 東海	21~22p
農福連携フォーラム&マルシェ in 九州	23~24p
農福連携フォーラム&マルシェ in 関東	25~26p
農福連携技術支援者の集い	27~28p
セミナー・フォーラム申込者アンケート総計	29p
フォーラム実施後アンケート会場比較・合算	30~31p
マルシェ購入者アンケート全会場合算	32p
マルシェ全出店者対象実施後アンケート	33p
まとめ	34~36p

本アンケートを見る際の注意点

- ・申込者数、参加者数、アンケートには主催者・登壇者は含んでいない。
- ・セミナー及びフォーラム申込者のアンケートは、本事業のイベント募集をすべてオンラインで行っていることから、提出率はほぼ 100%である。しかし、各設問については回答が必須ではないため回答率にはばらつきがある。
- ・セミナー及びフォーラムの実施後アンケートもオンラインで行っているが、イベント実施後にアクセスすることは任意であるため、回答率は低い。無作為抽出によるサンプリングではないため全体を代表してはいない。
- ・マルシェ購入者アンケートは、各マルシェ会場で主催スタッフが購入者に直接声掛けをし、回答を得た。
- ・『農福連携』街頭認知度調査』は、マルシェ会場やその周辺で、主催スタッフが無作為に通行人に声を掛けシール投票によって行った。

事業内容

「農福連携等推進ビジョン」で示された農福連携の課題である「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていない」を解決する取組として、認知度向上 WEB セミナーを 2 回、交付金活用 WEB セミナー 1 回、農福連携技術支援者の集い 1 回、フォーラム&マルシェを全国 8 都市で各 1 回、を開催した。

官民挙げて農福連携の取組を推進していくためには、農業と福祉の両分野に関係する人々の認知を高めることはもとより、広く国民の政策への理解が欠かせない。

これらイベントに向けた地域関係者への協力要請や集客といった準備活動において多くの説明機会が派生していくことの普及啓発に資する効果は大きい。

とりわけ本事業のフォーラム&マルシェは地方農政局の管轄地域を対象に都道府県を超えた広域から先進事業者が集まったことに特徴がある。

【認知度向上 WEB セミナー】

農福連携に関心を持ち始めた層を対象とし、わかりやすく親しみやすい形で農福連携の魅力を伝え、具体的な一歩を踏み出すことを促した。専門家による総論と福祉団体や農業者、企業等の当事者による各論で構成し、基礎的な内容や具体的な事例までがわかる内容とした。

【フォーラム】

開催地域における農福連携の取組としてノウハウ・アワード受賞事業者を中心に「参考としやすい」多様なパターンの先進事例を紹介し、農福連携に参画する事業者の増加を促した。基調講演を依頼した先進事業者については事前調査を行った上で紹介動画を作成して講演の冒頭で放映した。開催地域の地方農政局の協力を得るなどして地方自治体関係者にも参加を呼びかけることで、農福連携に関係している行政関係者と民間事業者とが一堂に会する場ともなった。

【マルシェ】

フォーラム会場の近隣で同時開催した。開催情報を知って来場する関心のある人々だけではなく、たまたま通りかかった未だまったく農福連携という言葉すら知らない人々にも取り組みの意義や魅力に触れる機会を創出することを目的に、中心市街地の商業施設内や広場などの人の行き交う場所を会場に選定した。先進事業者の地域的広がりを見える化するためにフォーラムとマルシェに参加した事業者を紹介する『農福連携魅力物語 MAP』を作成し、フォーラム&マルシェのチラシの裏面に印刷したリーフレットを事前の広報活動やマルシェ当日の会場を中心に配布し啓発に努めた。

【農福連携技術支援者の集い】

前年度に続き 2 回目の集いを開催した。農福連携の研究者と、福祉、農業、企業、行政の各現場で農福連携に取り組む農福連携技術支援者が登壇し、農福連携を取り巻く情報と課題を共有するとともに、農福連携技術支援者間の交流を図った。

【交付金活用 WEB セミナー】

農山漁村振興交付金を利用して農福連携事業を軌道に乗せている農業者と福祉事業者からの実践報告と、農林水産省と厚生労働省の担当官から農福連携の取り組みを後押しする政策メニューの紹介を行った。

【オンライン特設サイトの開設】

各イベントの広報や記録、情報集約を目的としてポータルサイト『マイナビ農業』上に特設サイト『農福連携魅力物語』を開設した。

<https://agri.mynavi.jp/regional-agricultural-welfare-collaboration/>

【効果検証】

各イベントの参加者・出店者の募集時と実施後にアンケートを行い、実態調査や効果検証を行った。マルシェ会場では購入者アンケートや街頭認知度調査も行った。

開催日	イベント名	会場（所在地）
2023/7/25	農福連携 WEB セミナー （認知度向上 web セミナー①）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1-7-5）
2023/8/22	農福連携 WEB セミナー （認知度向上 web セミナー②）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1-7-5）
2023/9/8	農福連携フォーラム & マルシェ in 北海道	ASTY45 中研修室 1206 （北海道札幌市中央区北 4 条西 5-1）
		札幌駅前通地下広場 （北海道札幌市中央区大通西 3）
2023/9/22	農福連携フォーラム & マルシェ in 東北	SS30 第 1・2 会議室 （宮城県仙台市青葉区中央 4-6-1）
		AER2 階アトリウム （宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1）
2023/10/12	農福連携フォーラム & マルシェ in 北陸	TKP 金沢新幹線口会議室 会議室 3A （石川県金沢市堀川新町 2-1）
		金沢駅東もてなしドーム地下広場 （石川県金沢市木ノ新保町 2）
2023/10/18	農福連携フォーラム & マルシェ in 中国四国	Central Forest 4 階ローズマリー （岡山県岡山市北区本町 6-30 第一セントラルビル 3 号館）
		イオンモール岡山 未来スクエア （岡山市北区下石井 1 丁目 2 番 1 号）
2023/10/26	農福連携フォーラム & マルシェ in 近畿	TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 9 階 飛雲 （京都府京都市下京区東塩小路町 721-1）
		イオンモール KYOTO （京都府京都市南区西九条鳥居口町 1）
2023/11/8	農福連携フォーラム & マルシェ in 東海	ツドイコ名駅東カンファレンスセンターRoomD （愛知県名古屋市中村区名駅 3-21-7 名古屋三交ビル 2 階）
		オアシス 21 （愛知県名古屋市中東区東桜 1-11-1）
2023/12/7	農福連携フォーラム & マルシェ in 九州	出島メッセ長崎 102 会議室 （長崎県長崎市尾上町 4-1）
		長崎浜屋 1 階アーケード （長崎県長崎市浜町 7-11）
2023/12/22	農福連携技術支援者の集い	千葉大学松戸キャンパス 100 周年記念戸定ヶ丘ホール （千葉県松戸市松戸 6 4 8）
2024/1/30	農福連携フォーラム & マルシェ in 関東	JP タワー ホール&カンファレンス カンファレンスルーム A （東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE4 階）
		東京シティアイパフォーマンスゾーン （東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE 地下 1 階）
2024/2/2	農福連携交付金活用セミナー	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 2 階 牡丹 （東京都文京区湯島 1-7-5）

アーカイブ動画一覧サイト

<https://www.notosoken.jp/noufuku/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%95%E5%B9%B4%E5%BA%A6/#arcmovie>

農福がはじめてのあなたに。

参加費
無料農福連携
WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加
募集中

農福連携ってなに？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。この機会に「農福連携」を知ってみませんか？

開催日時 2023年7/25(火) 13:00～16:00

応募期間 6/26(月)～7/21(金) ※応募者多数の際は先着順とさせていただきます。

場所 WEB開催 zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。

※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせていただきます。

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

- 【総論】農業と福祉の連携に関する展望～農福連携研究の視点から～
農研機構西日本農業研究センター 研究員 中本 英里氏
- 【福祉団体による取組】農福一体のソーシャルファーム
埼玉福興株式会社(埼玉県熊谷市) 代表取締役 新井 利昌氏
- 【農業者による取組】ネギ栽培で実践する組織的な農福連携
有限会社岡山県農商(岡山県岡山市) 代表取締役 板橋 良樹氏
- 【企業による取組】16年目の挑戦 コクヨが取り組む農福バランス
ハートランド株式会社(大阪府泉南市) 代表取締役 水谷 亨氏
- 農林水産省からの情報提供
- ワークシート&フィードバック
本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、中本氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般 農業者、社会福祉法人、
企業経営者・担当者等 どなたでもお気軽にご参加ください！

申込方法 申込はこちら


<https://forms.gle/m5DRaZvu78Phy4WA>

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL 03-3868-0889

E-mail noufuku@notosoken.jp

営業時間 10:00～18:00

※土日祝・年末年始を除く

講師プロフィール



農研機構
西日本農業研究センター
研究員
中本 英里氏

専門は農業経済、農業経営。農福連携の効果に関する調査研究を始め、学術研究の実績も多数あり。数多くの講演やセミナーの講師を務め、農福連携の普及推進に尽力している。平成25年には、ヤンマー学生懸賞論文大賞受賞、平成30年には、地域農林経済学会個別報告優秀賞を受賞している。



埼玉福興株式会社
(埼玉県熊谷市)
代表取締役
新井 利昌氏

「ソーシャル・ファーム」として、障害者やニート、罪を犯した者など、社会的に排除されやすい方々に対し、自立的かつ主体的に活動できる場や居場所を地域内で提供しながら、地域を支える担い手として社会循環を創りだしている。



有限会社岡山県農商
(岡山県岡山市)
代表取締役
板橋 良樹氏

岡山県の農業生産法人。平成20年にNPO法人岡山自立支援センターを設立。青ネギ、ミニトマトの通年出荷をメインにさまざまな農産物の生産・加工・販売を行っている。障害者と高齢者を積極的に雇用しており、農福連携の発展に尽力している。



ハートランド株式会社
(大阪府泉南市)
代表取締役
水谷 亨氏

平成18年に設立したコクヨ株式会社の特例子会社。特例子会社の農地所有適格法人としては日本初の取組事例である。令和4年度は、知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員17名が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培。24時間コンピュータ管理を導入し、高品質な野菜を安定的に生産している。

主催：株式会社農都共生総合研究所



上段左から、農水（八巻課長補佐、福田調整員）、水谷氏、新井氏、下段左から、農都（川辺）、中本氏、板橋氏

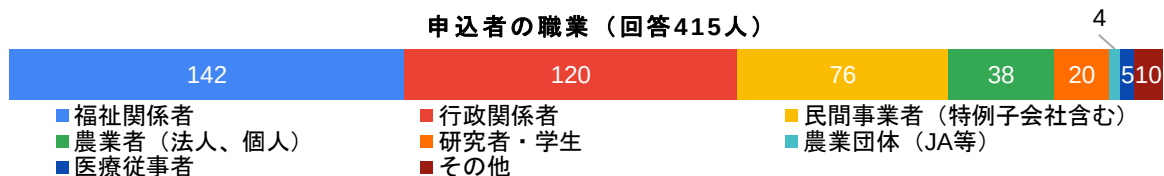
認知度向上 web セミナー①

開催日時 2023年7月25日(火)13:00~16:00

オンライン開催

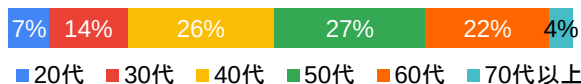
申込数：415件 参加者数：296人

申込者の職業（回答415人）



実施後アンケート

年齢（回答124人）



セミナー理解度（回答125人）



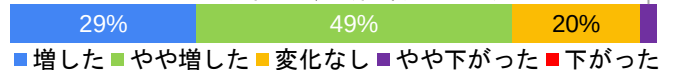
セミナー内容の満足度（回答125人）



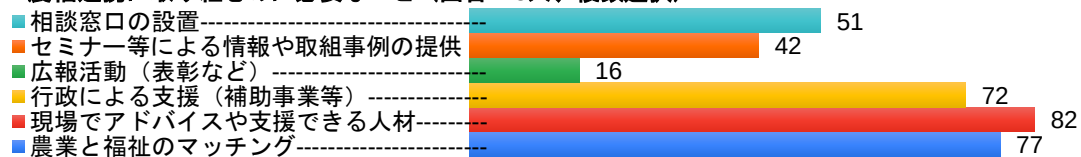
農福連携の取組状況（回答125人）



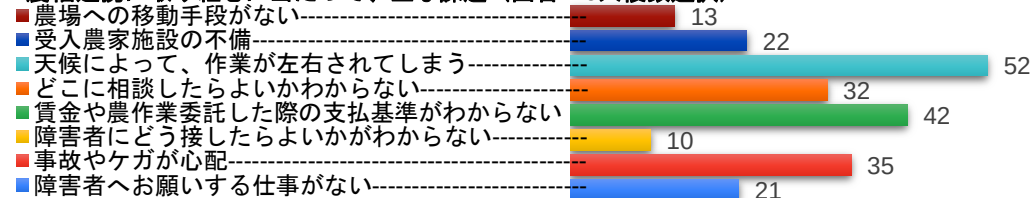
取組意欲（回答125人）



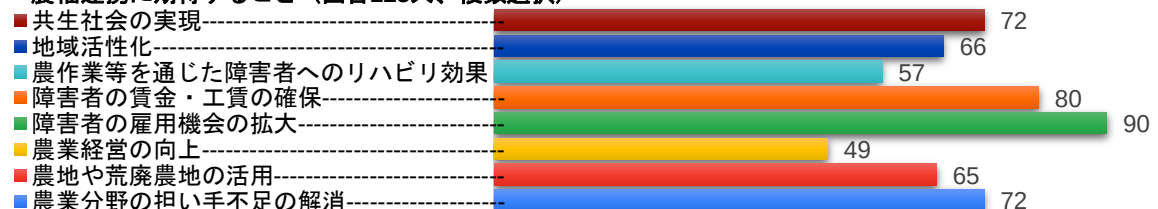
農福連携に取り組むのに必要なこと（回答125人、複数選択）



農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答119人複数選択）



農福連携に期待すること（回答125人、複数選択）



農福がはじめてのあなたに。

参加費
無料

農福連携 WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加
募集中

農福連携ってなに？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。第1回目とは異なる講師陣を迎え、新たな視点・考え方を知るセミナーとなっております。この機会に「農福連携」を知ってみませんか？

開催日時 2023年 **8/22(火)** 13:00～16:00

応募期間 **7/25(火)～8/18(金)**

※応募者多数の際は先着順とさせていただきます。

場所 **WEB開催**

zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。

※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせていただきます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般、農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者等 どなたでもお気軽にご参加ください！

申込方法 申込はこちら ▶▶▶



<https://forms.gle/UMRz77ybEY78Ue8M6>

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL **03-3868-0889**

E-mail **noufuku@notosoken.jp**

営業時間 10:00～18:00 ※土日祝・年末年始を除く

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

1

【総論】

農業関係者、福祉関係者、障がい者、保護者目線からみた農福連携

酪農学園大学
(北海道江別市)教授

義平 大樹氏



2

【福祉団体による取組】

フラワーパッケージセンターの地域に密着した農福連携の取組

社会福祉法人ハイジ福祉会
(福岡県八女市)施設長

山口 隆充氏



3

【農業者による取組】

農業が果たす地域福祉への関わり方

株式会社耕野
(岩手県花巻市)代表取締役

安藤 誠二氏



4

【企業による取組】

「ありがとう」の気持ちを込めて～私たちの農福連携～

はーとふる川内株式会社(徳島県板野郡北島町)
代表取締役社長

山田 圭吾氏



5

農林水産省からの情報提供

6

ワークシート&フィードバック

本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、義平氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。



左から山口氏、安藤氏、山田氏、義平氏

認知度向上 web セミナー②

開催日時 2023年8月22日(火) 13:00~16:00

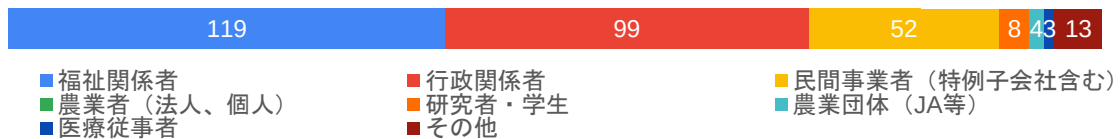
オンライン開催

申込数: 305件 参加者数: 182人



農林水産省
八巻課長補佐 福田調整員

申込者の職業 (回答298人)

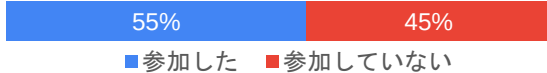


実施後アンケート

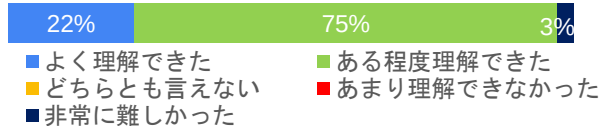
年齢 (回答79人)



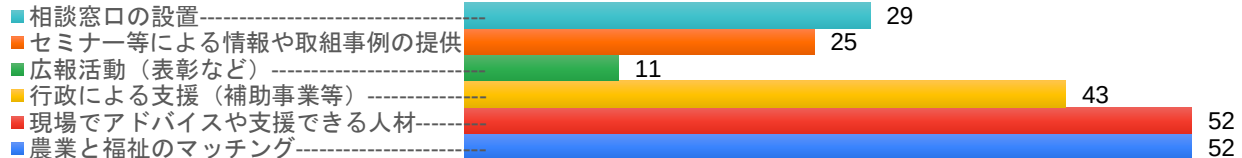
第1回目のセミナーにご参加 (回答80人)



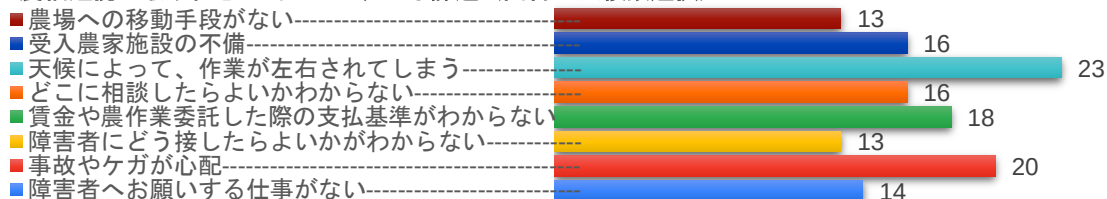
はじめての参加で理解度は? (回答36人)



農福連携に取り組むのに必要なこと (回答77人、複数選択)



農福連携に取り組むに当たって、主な課題 (回答75人複数選択)



農福連携に期待すること (回答77人、複数回答)

